

Bulletin
of
Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
No.28, Feb, 2014

Contents**Original Papers**

- 1 Makiko KASAI and Yaeko ISHIKAWA
Relationships between School Club Activities and Resilience in Japanese Students
- 11 Jamshid AHMADIAN, Mamoru MURATA, Alireza NADIMI, Hiroaki OZAWA and Takeshi KOZAI
Active tectonics of Iran deduced from earthquakes, active faulting and GPS evidences
- 23 Jamshid AHMADIAN, Mamoru MURATA, Alireza NADIMI, Hiroaki OZAWA and Takeshi KOZAI
Recent tectonic activity of Iran deduced from young magmatism evidences
- 39 Katsuyuki YAMASAKI, Kanako UCHIDA and Yusuke MURAKAMI
Evaluation in the School Prevention Education for Children's Health and Adjustment Based on the Science of Prevention Education: Preliminary Evaluation Methods at the Present Stage Prior to Randomized Controlled Trials
- 47 Katsuyuki YAMASAKI and Kanako UCHIDA
Processes and Methods for the Dissemination of Prevention Education at School
- 55 Noriko NAGATA, Syuhei SAITO, Keiji UMENO, Osamu HAYASHI and Yoshihiro KAMIHARA
Effect on Back Ring Target shooting in Basketball
- 61 Yoichi MAEDA, Hidekazu SAKO, Masato ONOSE, Naoto KUGA, Hirotsugu KOSAKA, Kenji SAKANE, Masahiro MURAKAWA, Tsunehide AGATA, Hidefumi KUZUKAMI, Akiyoshi SHIBAYAMA and Kayo SUEUCHI
Practical Study on Educational Improvement through Partnership among University, School and The Board of Education (VI)
The progress of school assistance by the cooperative project of Naruto University and Suzuka Board of Education.
- 75 Yumiko ONO, Mitsuko MAEDA and Satoshi NAKAMURA
A case report on the transformation of Intercultural perspectives of incumbent teachers participating in a Japan Overseas Cooperation Volunteer Program
- 87 Yumi ANDO and Katsuyuki YAMASAKI
Prevention Education program(TOP SELF) for the Development of Self-Confidence: Implementation and Effectiveness of the Program in the first-year students in a junior high school.
- 97 Akiyoshi SHIBAYAMA, Hidefumi KUZUKAMI, Hidekazu SAKO, Masato ONOSE, Naoto KUGA, Hirotsugu KOSAKA, Kenji SAKANE, Masahiro MURAKAWA, Tsunehide AGATA, Kayo SUEUCHI and Yoichi MAEDA
Practical Study on Educational Improvement through Partnership among University, School and The Board of Education (VII)
The construction of Questionnaires for School Assessment to Middle High Schools in Suzuka City (II)
- 103 Takeshi KOZAI, Eri ANDO, Masayoshi MATSUOKA, Akinori DAN, Mamoru MURATA and Hiroaki OZAWA
The Naruto fisherman who contributed to the technological development and dissemination of the Naruto "Wakame" seaweed aquaculture
~ For regional development of teaching materials "Improving human life through the development of science and technology" in junior high school Natural Science ~
- 113 Takeshi KOZAI, Hiroki ISHIZAKA, Yohei MATSUGAKI, Miki YOSHITAKE and Kaori KITANO
Teaching natural sciences in Mozambique's primary schools, indication the didactic orientation
- 121 Kota MATSUI and Kazuo YAMASHITA
Student Perception of and Dependency on Teachers in School Athletic Clubs
: Analysis in terms of gender, grade, competition level and event
- 131 Nobuhiko FUJIHARA
Support for ICT Use in Elementary and Junior High Schools in Naruto: Activity Report of Division of Educational Technology, Center for Collaboration in Community
- 139 Naohiro MINAGAWA
Gathering and classifying the case of educational activities conducted by giving special consideration to children's zone of proximal development
- 145 Hidekazu SAKO and Takayuki SUMIDA
Action Research for Organized Educational Activities based on Theory of School Organizational Development

鳴門教育大学
学校教育研究紀要

No.28

- 高校生のスポーツ活動とレジリエンスの関連について 1 葛西真記子, 石川八重子
- Active tectonics of Iran deduced from earthquakes, active faulting and GPS evidences 11 Jamshid AHMADIAN, Mamoru MURATA, Alireza NADIMI, Hiroaki OZAWA and Takeshi KOZAI
- Recent tectonic activity of Iran deduced from young magmatism evidences 23 Jamshid AHMADIAN, Mamoru MURATA, Alireza NADIMI, Hiroaki OZAWA and Takeshi KOZAI
- 予防教育科学に基づく「子どもの健康と適応」のための学校予防教育における評価のあり方
－無作為化比較試験への準備としての現段階の評価－ 39 山崎 勝之, 内田香奈子, 村上 祐介
- 学校予防教育の普及への方途と過程 47 山崎 勝之, 内田香奈子
- バスケットボールにおける Back Ring Target 投法の有効性に関する実験的研究
－練習効果に着目して－ 55 長田 則子, 斎藤 秀平, 梅野 圭史
林 修, 上原 禎弘
- 大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究 (VI)
－本学と鈴鹿市教育委員会との連携事業に関する学校支援の経過－ 61 前田 洋一, 佐古 秀一, 小野瀬雅人
久我 直人, 小坂 浩嗣, 阪根 健二
村川 雅弘, 阿形 恒秀, 葛上 秀文
芝山 明義, 末内 佳代
- 青年海外協力隊に参加した現職教員の意識変容のケースヒストリー 75 小野由美子, 前田 美子, 中村 聡
- 学校予防教育プログラム TOP SELF 「自己信頼心 (自信) の育成」
－中学1年生での実施と効果－ 87 安藤 有美, 山崎 勝之
- 大学・教育委員会・学校と連携した教育改善に関する実践研究 (VII)
－鈴鹿市中学校における学校診断質問紙の構成について (II) － 97 芝山 明義, 葛上 秀文, 佐古 秀一
小野瀬雅人, 久我 直人, 小坂 浩嗣
阪根 健二, 村川 雅弘, 阿形 恒秀
末内 佳代, 前田 洋一
- 鳴門ワカメの養殖技術開発・普及に貢献した鳴門の漁師
～中学校理科「科学技術の発展と人間生活の向上」の地域教材開発のために～ 103 香西 武, 安藤 恵里, 松岡 正義
團 昭紀, 村田 守, 小澤 大成
- モザンビーク共和国学習指導指針に示された小学校理科教育 113 香西 武, 石坂 広樹, 松垣 洋平
吉武 美岐, 北野 香
- 運動部活動における生徒の認知する指導者像と生徒の依存性
－性別・学年・競技水準・競技種目からの検討－ 121 松井 幸太, 山下 一夫
- 鳴門市小・中学校における ICT 活用の支援
－地域連携センター教育情報コミュニケーション分野 活動報告－ 131 藤原 伸彦
- 子どもの最近接発達領域を考慮した教育事例の収集と分類 139 皆川 直凡
- 学校組織開発理論にもとづく教育活動の組織的改善に関する実践研究 145 佐古 秀一, 住田 隆之

鳴門教育大学学校教育研究紀要 投稿要項

- 鳴門教育大学学校教育研究紀要（以下「紀要」という。）は、主として次の投稿論文を掲載する。
 - 地域連携センター（以下「センター」という。）の客員研究員研究プロジェクト（以下「研究プロジェクト」という。）の研究成果である未発表の投稿論文
 - センターの活動として行う研究等に関する未発表の投稿論文
 - その他センターが特に認めた未発表の投稿論文
 - 紀要に執筆できる者は、次のとおりとする。
 - 本学の専任教員及び附属学校園教員
 - 本学の専任教員を論文の共著者とした研究プロジェクトの研究分担者
 - その他センター所長が特に認めた者ただし、(1)(2)(3)ともに、共著の場合は本学の専任教員及び附属学校園教員を共著者とし、第一著者は本学の専任教員、附属学校園教員、研究員、客員研究員、研究補佐員、大学院生（連合大学院生を含む。）のうちいずれかとする。
 - 投稿論文の区分は、次のとおりとする。
 - 問題提起と研究成果・理論的考察を備えた、比較的まとまったものを原著論文とする。
 - 研究の経過報告、調査資料の報告などをとりまとめたものを研究報告とする。
 - 第一著者として投稿できる論文数は、1執筆者につき2編までとする。
 - 投稿論文の掲載の可否及び掲載の順序などについては、センター所長及びセンター担当教員で構成する学校教育研究紀要編集委員会において決定する。
 - 投稿論文の著作権及び公開については、次のとおりとする。
 - 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属する。ただし、鳴門教育大学に対して、継続的に複製権、公衆送信権を許諾することとする。
また、投稿論文が第三者の著作権その他の権利の侵害問題を生じさせた場合、一切の責務は投稿者が負うものとする。
 - 論文は原則としてウェブページで公開するものとし、掲載が認められた時点で、著者の許諾があったものとして取り扱う。なお、特別な事情によりウェブページでの公開を許諾できない場合は、理由書を学校教育研究紀要編集委員会に提出し、非公開とすることに対して許諾を得るものとする。
 - 執筆要項は、原則として次のとおりとする。
 - 原稿は、和文あるいは英文によるものとする。原則としてMS-Wordあるいは一太郎を用いる。印刷サイズはA 4版の縦おきで、上下左右の余白は各々25 mm, 20 mm, 15 mm, 15 mmとし、文と図、表、写真、文献等を含めて作成する。和文、英文ともに刷り上がりページ数は、原則として原著論文は10ページまで、研究報告は6ページまでとする。
 - 和文原稿は、常用漢字、新かなづかいで横書きとする。冒頭には、タイトル、タイトル(英文)、著者名、所属と所在地、著者名(英文)、所属と所在地(英文)、抄録(200～400字)、キーワード(重要な順に3～5語)、アブストラクト(英文、200ワード以内)、キーワード(英文)を1段組で、それ以降の本文、引用文献等は2段組(25字×48行×2段組、段間は10 mm程度)で記す。
本文の書体は明朝体(9 pt)を標準とする。句読点は、原則として「、(コンマ)」と「。(句点)」に統一する。1桁の数字は全角、2桁以上の数字は半角、アルファベットは半角を基本とする。
 - 英文原稿は、冒頭に、タイトル、著者名、所属と所在地、アブストラクト(200ワード以内)、キーワード(重要な順に3～5語)を1段組で、それ以降の本文、引用文献は2段組(48行×2段組、段間は10 mm程度)で記す。
本文の書体はTimes(9 pt)を標準とする。
 - 本文の見出しの番号の付け方は、和文原稿ではゴシック体(9 pt)全角で、欧文原稿ではArial(9 pt)で、次のようにする。
大見出し ローマ数字で表す。中央揃えを標準とする。
中見出し アラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
小見出し 片括弧付きアラビア数字で表す。左揃えを標準とする。
I. …
1. …
1) …
2) …
3) …
2. …
 - 図表
図(写真を含む)や表は、鮮明で内容が判別できるものを用いる。図表は必要最低数にとどめ、1枚の図表の最大サイズは刷り上がりで見開き2ページを超えないものとする。必要な場合は1段組にしてもよい。
図題は図の下に、和文原稿では図1、図2…のように、英文原稿ではFig. 1, Fig. 2…のように記す。また、表題は表の上に、和文原稿では表1、表2…のように、英文原稿ではTable 1, Table 2…のように記す。図題、表題ともに、和文原稿はゴシック体(9 pt)、英文原稿ではArial(9 pt)で、中央揃えとする。
写真は白黒写真を原則とし、挿入位置及び仕上りサイズを原稿用紙上につける。なお、カラー写真の掲載を希望する場合には、その印刷実費は第1著者又は研究代表者の個人(研究費)負担とする。
 - 参考文献及び引用文献
 - 本文中での文献の引用は、英字、記号、数字を半角とし、以下のとおりとする。
(例) GAGNE (1970b) は……
前田(1969)は、……。
……と述べている(GAGNE, 1970b)。
……と述べている(前田, 1969)。
 - 文献は、投稿論文の最後一括して、著者名のアルファベット順に表記する。記述は英字、記号、数字を半角とし、以下の形式を標準とするが、他の形式を用いてもよい。
 - 論文の場合は、著者名、発表年、表題、雑誌名(書名)、巻(号)、ページ。
(例) 鳴門太郎(1900)、日本の学校、日本教育、16(1)、pp.1－10。
鳴門太郎：『日本の学校』、『日本教育』、Vol.16, No.1, pp.1－10, 1990年。
『日本の学校』、鳴門太郎、『日本教育』、第16巻第1号、1－10頁、1990年。
 - 単行本の場合は、監編著者名、出版年、書名、出版社、ページ。
(例) 鳴門太郎編著(1900)、日本の学校、日本出版、pp.1－200。
鳴門太郎編著：『日本の学校』、日本出版、1－200頁、1990年。
『日本の学校』鳴門太郎編著(日本出版、1990年、全200頁)
 - 外国文献の単行本の場合は、編著者名(出版年)、書名、出版社所在地、出版社、ページ。
(例) NARUTO, Taro(1900), The Japanese School, Tokyo, Nippon Syuppan, pp.1-200.
 - 注記は必要な場合には本文の最後、文献の前一括して記述し、本文中では該当箇所の右肩上付で、注1)、注2)のようにして示す。
 - 研究プロジェクトの研究成果である原著論文又は研究報告については、文献の後に付記として、当該研究プロジェクトの年度、研究題目を明示する。
- 投稿は、文書ファイルを、社会連携課社会連携チームまでメール(chiiki@naruto-u.ac.jp)にて提出する。
- 校正は著者が責任を持って行い、誤植の訂正のみとし内容の加筆、修正、削除等は受け付けない。
なお、著者校正は初校のみとする。
- 別刷の費用は、個人(研究費)負担とする。

2013年度 学校教育研究紀要編集委員会委員

吉 本 佐雅子	地域連携センター所長
阪 根 健 二	教育連携コーディネート分野
藤 原 伸 彦	教育情報コミュニケーション分野

2013年度 鳴門教育大学学校教育研究紀要 No.28

発行年月	2014年2月
編集	鳴門教育大学地域連携センター
発行	鳴門教育大学地域連携センター 〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748 電話 088-687-6101 FAX 088-687-6100
印刷	(協)徳島印刷センター 〒770-8056 徳島市問屋町165 電話 088-625-0135 FAX 088-622-0734